

第 37 回 大正アワード受賞コメント

この度は、伝統ある大正アワード・臨床部門に選出いただき、誠に光栄に存じます。

今回の受賞論文は、日常診療において頻繁に遭遇する脊椎圧迫骨折に着目し、これまで十分に議論されてこなかった疼痛と機能低下の実態を明らかにすることを目的としたものです。リアルワールドデータを用い、鎮痛薬の処方期間および要介護度の変化に注目することで、その臨床的特徴を多面的に捉えることを試みました。

本研究は、私個人の力だけでは到底成し得ないものであり、多くの先生方のご指導とご支援の賜物です。ご指導を賜りました東京大学臨床疫学経済学教室の康永先生をはじめ、解析手法の面で多大なるご助言を頂いた自治医科大学データサイエンスセンターの山名先生、東京大学リアルワールドエビデンス講座の笹渕先生、ならびに日々の診療と研究にご協力いただいている群馬大学整形外科の皆様、同門の皆様に心より御礼申し上げます。

この度の受賞を励みに、今後もリアルワールドデータを活用したエビデンスの構築を通じて臨床現場に還元できる研究を続け、精進してまいりたいと存じます。
誠にありがとうございました。

群馬大学整形外科 本田 哲